

## 大学図書館員研修の現状と課題

阿部冬季

現在、大学図書館員に求められる能力は多様化しており、教育研究に積極的にかかわる専門性や幅広い業務遂行能力が求められている。一方で、大学経営の悪化により研修機会を確保することは今後困難になると思われる。さらに、参加者が特定の場所に集まる集合研修では地域間で研修の開催数に差があるなどの問題があるのに加え、COVID-19 の蔓延により、大学図書館員研修が中止になるなど集合研修の実施が困難になっている。そこで、本研究ではこれまでの研修の動きをまとめ、今後の研修の在り方について考察することを研究目的とする。

本研究では、文献調査とインタビュー調査を行った。文献調査では、大学図書館職員を対象とした研修の開催数の変遷を把握することを目的とし『図書館年鑑』に記載されている大学図書館向けの「研究集会」の掲載数の調査と、過去の研修の変遷を調査することを目的とし「大学図書館職員長期研修」（長期研修）と「大学図書館職員短期研修」（短期研修）を対象に講義テーマの分類や講師の変遷についての調査を行った。文献調査から、「研究集会」数が減少していることと長期研修では「パブリックサービス」、短期研修では「情報技術の活用」の講義が増加していることが明らかとなった。インタビュー調査では、長期研修の企画担当者に対して半構造化インタビューを行い、「カリキュラム等の設定について」「研修の提供方法について」「eラーニングのような情報技術を用いた研修について」「汎用的能力の位置づけについて」「COVID-19 について」の5つの質問項目について調査した。インタビュー調査から、汎用的能力の重要性、オンライン研修実施の課題、講師の決め方についてについて明らかとなった。

調査結果から、大学図書館員研修の現状として大学図書館員研修では「研究集会」数が全国的に減少傾向にあることが明らかとなった。また、時代に求められる大学図書館の知識やスキルに合わせて研修のテーマが変遷しているという現状が判明した。

大学図書館員研修の課題は2つある。1つ目は「研究集会」数が全国的に減少傾向にあることから日本全体で図書館員の技能・資質向上の機会が失われる恐れがあるため、これを防ぐために研修開催機関同士の協力や後述の情報技術を用いた研修の活用が必要である。2つ目は情報技術を用いた研修の実施が異なるカリキュラムやオンラインシステム運用が開催者側に求められるため活用することが現状では困難であるということだ。

現在も COVID-19 の拡大が続いており、今後は集合研修と併用して情報技術を用いた研修を活用することが研修開催に必要だと考えられる。そのためにこれまで遠隔研修を実施していた機関によるノウハウを伝承するなどして研修開催機関が協力して遠隔研修を作る必要がある。

(指導教員 逸村裕)